



自由経済システムという世界の支配

黒田インターナショナル

黒田 毅

経済は世界を支配する。それに疑いを有するものはいないのである。経済は資本において自己を有する。これが世界の現実である。

経済は必ず生存を与える手段であり、それが目的として競争社会を形成する。シカゴ学派における自由経済の信奉は、全ての生活需要を自由貿易システムとともに充足するという意見である。

しかしこれらはヒエラルキーの形成と世界の2分化という矛盾を与える。これらは2分化における貧困と道徳的退廃、それに対するエリートの非難というメビウスリングを与える。

これらが社会の良識であり良心なのである。これら社会の葛藤は、全ての問題を永続的に創造する。

これらは経済が生存への需要を生産することにおける、自由経済という現実である。これは、自由は最も厳しい現実を与えることと、自由という現実はその魔力を有するのである。

他方に存在するのが共産主義における統制社会である。

自由は競争を生み、勝者を与える。

それは個人における必要性がそれらへの判断を与えるのである。これが自由世界の形成である。

真実において統制世界と自由世界の最終戦争が存在する。これは北風と太陽であり、現実における答えは、現実において尋ねるほかないのである。これはサイコロの目は、永遠に知られることがないということなのである。

これが自由意志という真実であり、世界を形成する全てなのである。

自由意志はその奴隷でない自己を象徴し、自由意志に正しく自己を与えるのは、必ず自由世界なのである。

これは新たな勝者が世界を有することであり、これは永遠に歴史を形成する。